平成１０年６月３０日　発行　　会長　山内　武道

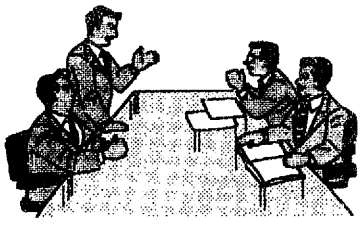
北海道国際理解教育研究協議会　会報　第４１号

事務局長　高橋　承道

各地区の実態に即した実践研究のいっそうの充実発展を目ざして…

＝第１９回北海道国際理解教育研究大会・後志大会へのご支援を＝

北海道国際理解教育研究協議会
会　長　山　内　武　道
（札幌市立真駒内緑小学校校長）



学校現場での国際理解教育への関心が高まっていると共に、北海道国際理解教育研究協議会が教育研究団体として確かな力を備えてきています。そのことは、昨年の釧路での 1,000名にも及ぶ参加者があった全国大会や一昨年の札幌大会での研究成果からも明らかになってきています。

また、学習指導要領の改定に伴って新たに設けられる“総合的な学習”の中でも国際理解教育は重要な位置づけがなされています。

何時も申し上げていますが、本会は各地区の実態に即した独自の研究や実践を進めることを大切にしています。そのことから総合的な学習の意義を考えますと、国際理解教育と重なる面も極めて多いと認識しています。

それと共に、現在の国際理解教育が特別な学校で行われている特別な教育活動であるとの認識をぬぐいとり、どこの学校でも、どの領域でも当然のこととして取り上げられる教育活動であることを目ざしていきたいと思います。

特に島国に住む日本人にとっては、年齢の若い段階から違いを知り、違いを認める教育を行うことが重要であり、それが、国際理解教育の基盤になると考えています。

また、それは、今、大きな問題となっており解決が急がれる“いじめ・暴力・不登校”をなくすことにも結びつくと信じています。

それぞれの地区での地についた研究や実践をより確かなものにするための場として、また、その中から互いに学び合い、吸収し合うための場としての全道大会が開催されていることは、申し上げるまでもないことです。この様に積み上げられてきた北海道の国際理解教育の実績は、全国的にも高い評価を受けていることを昨年の釧路大会で明らかになっています。

本年度の後志大会は本会の「第５次研究のまとめ」を行い、次の網走大会からスタートします「第６次研究」へ結びつけていくための研究大会となります。

後志国際理解教育研究会の皆様のご協力と関係機関のご支援によって準備は、着々と進んでいます。長い歴史を持ち多くの著名な方々を輩出している余市町での研究大会の開催に胸をふくらませ、強い期待を持っているところです。

１０月２２日(木)・２３日(金)の両日、学校行事等でご多用な時期ではありますが、全道各地区の皆様には現在の学校教育における重要課題への取り組みの機会としてご理解いただき、多数ご参加賜りますようお願い申し上げます。

この研究大会へ参加されて得た成果が学校現場での実践に生かされ、北海道の国際理解教育が益々広がりをもち確かなものになっていくことを心から願っています。

平成９年度　　会務報告

平成９年

３月
- 平成９年度第１回「理事会総会」(KKR札幌)
- 平成９年度「派遣教員研修会、平成８年度帰国報告会」(KKR札幌)
- 平成９年度「派遣教員激励会」(KKR札幌)

４月
- 事務局組織決定、委嘱状発送
- 地区会長名簿作成

５月
- 第１回事務局会議

６月
- 会員名簿完成
- 広報No.３８号、会員名簿、第３事案内、会費納入案内送付

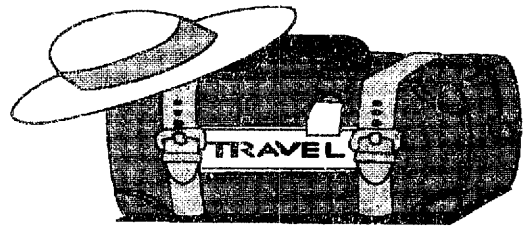
７月
- 第２回事務局会議
- 「全海研理事会」(釧路まなぼっと幣舞)
- 第２回「理事会総会」(釧路まなぼっと幣舞)
- 第24回全国国際理解教育研究大会開催(7/30~31　釧路まなぼっと幣舞)

11月
- 第３回事務局会議
- 「広報No.３９号」発送
- 「全国大会釧路大会研究集録」発送

平成10年

２月
- 第３回事務局会議
- 「広報No.４０号」発送

３月
- 第４回事務局会議
- 「平成10年度　派遣教員及び帰国教員研修会」(札幌真駒内緑小)
- 「平成10年度　派遣教員激励会」(ホテル札幌会館)
- 「平成10年度　理事会総会」(札幌真駒内緑小)



平成１０年度　　会務計画

１．基本方針　　２１世紀に生きる北海道の子どもたちが、国際社会に貢献できる日本人としての資質が育成される学校教育の在り方を探る。
　　○授業実践を通し研究を深める。
　　○研究を支える組織の充実。

２．重　　点　　1)第19回北海道国際理解教育研究大会後志大会の成功
　　○研究団体としての会員の資質の向上と研究の深化を図る。
　　○北海道の国際理解教育の普及に努める。
　　2)派遣教員及び帰国教員研修会の実施
　　○派遣教員の資質の向上を図るとともに、任務の全うをサポートする。
　　○帰国教員の貴重な経験の還元の窓口を果たす。

３．事業計画

平成10年

４月
- 役員会
- 研究構想検討
- 名簿提出依頼
- 役員、事務局委員委嘱状配布

５月
- 研究大会での研究発表者依頼
- 会員名簿の作成
- 第１回事務局会議
- 会費納入依頼

６月
- 会員名簿の配布
- 第２回事務局会議
- 年会費徴収
- 「広報No.４１」印刷、発行、発送

７月
- 役員会
- 夏の学習会
- 帰国報告集原稿依頼

８月
- 国際ジュニアアートキャンプ
- 全国大会参加、理事会出席

９月
- 第３回事務局会議
- 網走地区の研究会打ち合わせ開始

10月
- 全道研究大会開催(後志)
- 理事会総会
- 地区交流会

11月
- 第４回事務局会議
- 「広報No.４２」印刷、発行、発送
- 実践資料の収集と編集
- 帰国報告集編集

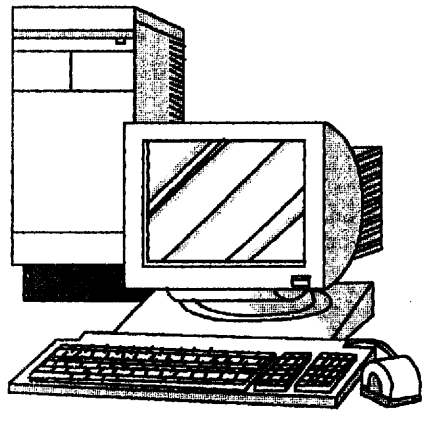
12月
- 役員会
- 研究集録発行

１１年

１月
- 派遣教員研修会
- 激励会開催
- 帰国報告会
- 帰国報告集発行

２月
- 第５回事務局会議
- 「広報No.４３」印刷、発行、発送
- 帰国報告集、研究収録発行
- 実践資料集発行

３月
- 役員会



釧路地区研究の歩み

釧路地区研究部

Ⅰ　釧路地区研究主題

「広く世界に目を開き，豊かに，たくましく生きる児童生徒の育成」

～国際性と共生の意識を培う国際理解教育の展開～　　1996年6月1日改訂

Ⅱ　研究主題の設定理由

情報化，交通システムの発達等によって世界は狭くなり，相互依存，相互協力の立場から世界平和，地球環境保全のために貢献することが求められている。そこで，国際的視野に立って日本人としての自己を確立しつつ，多様な異文化を受容し，変貌著しい社会にも主体的に対応しながら望ましい人間関係が保てる資質を培うことを目指してこの主題を設定した。（詳細は昨年度の全国大会研究紀要ｐ９を参照）

Ⅲ　研究の見通し（今年度の重点事項）

【研究の視点】

「自己と他とのかかわり」の中で，心の中から染み出た，同じ生きる人間同士としての共感が伴った深いうなずきが得られるように，日常生活の中で生まれるはたらきかけ合いを大切にした実践に努める。昨年度の全国大会の成果を踏まえ，当会が構想した授業の検証を中心としながら，実体験が伴った具体的な行動を起こしながら地域社会と共に歩んでいく。

(1)　学校教育において

「人権意識や道徳性の涵養」を根本に据えた「人間としての在り方や生き方」を考えさせたり，育んだりする指導の充実を図るため，生徒指導を基盤とした授業の展開を図り，児童生徒が個々のよさに気づき，人間として向上的変容が遂げられるようにする。

◆第16回釧路地方国際理解教育研究会（授業研究会）　　9月８日

◆夏期研修会，冬期研修会の実施　　長期休業中に予定

(2)　地域社会の中で

相互に役立つことを前提として，主体的に「生かし」「生かされる」ということを基本とした中で啓発に努め合うことが，「国際理解教育＝人際理解教育＝人間理解教育」の目的あるいは理念の具現化に迫ることになる。当会の組織や人材等を活用してもらい，国際理解教育の一層の充実を図っていく。

◆シンポジウム，派遣教員帰国＆海外教育事情視察報告会　　5月30日実施

◆市民講座（ジャイカとの提携）＆シンポジウム　　2月に予定

(3)　国際交流への具体的行動

視野を地球規模においた実感の伴った具体的行動をなかなか起こすことができなかった。そこで，国際ボランティア貯金，ユネスコ・世界寺子屋運動やフォスタープランなどの具体的行動を組織レベルで起こし，何かができるという意識を会員や地域社会に広げて取組を進める。

札幌地区研究の歩み

札幌地区研究部

Ⅰ　札幌地区研究主題

「広く世界に目を開き　豊かに・たくましく生きる　児童生徒の育成」

～　異文化との出会いを求めて　～

Ⅱ　研究主題の設定理由

研究主題にこめられた願いは，次の二つの点である。

1.　「地球の中の日本」「地球の中で生活する日本人」という観点を明確にし，地球的な視野から日本を見つめなおすこと

2.　子供の生き方にかかわる教育を充実すること，さらに，心の教育を大切にしていくこと

また，研究副主題にこめられた願いは，次の三つの側面である。

1.　自己理解を他者理解との関連で深めていくこと

2.　異文化を単に外国の文化ととらえるのではなく，「自分たちとは異なった文化」という意味でとらえること

3.　受容的・共感的な受けとめ方ができるようにすること

Ⅲ　研究の見通し

今年度は，上記の研究主題で取り組んできた３ヵ年研究のまとめの年である。３ヵ年研究をまとめるにあたって，以下の二つの点に留意した。

1.　「１７回北海道国際理解教育研究大会札幌大会」「第１３回札幌国際理解教育研究大会」の成果と課題を踏まえたものとする。

2.　新しい国際理解教育がめざすものを踏まえたものとする。

以上の二つの点を踏まえつつ，今年度の研究を次のように具体化した。

「総合的な学習」の一つの柱になると考えられる「国際理解教育」の具体化への道筋をつけていく。

国際理解教育の願い		めざす子供像		学校での実践
国際化への対応	→	・他者を理解し協力する子 ・お互いのよさを認め合う子 ・自分の考えを表現できる子	→	・異文化理解・異文化交流の能力育成 ・英語コミュニケーション能力の育成 ・外国の生活や文化に親しむ活動・体験活動 ・「総合的な学習」の実践プラン・計画・教材開発・単元づくりなど

実際の研究運営については，「学習会」を軸に進めることとした。具体的には次の通りである。

(1)　日時・場所　　毎月第３金曜日　１８：００～２０：００　札幌市立真駒内緑小学校

(2)　内　　容　　「テーマにそった話し合い」と「国際理解教育の授業づくり」

IEフォーラム

新しい学びの創造

中教審の内容が発表され，総合的な学習の姿が明らかになるにつれて，学校現場では一層，国際理解教育の授業での具体化が叫ばれるようになった。

この時，大切なことは，国際理解教育が，活動の中に，現実的課題を取り込んで行く役割を担っているかどうかということである。ややもすると現実から遊離しがちな学校での学びの中に，現実的な様々な問題を取り入れることにより，子供たちの学びは生活に根差したものになる。そして，その解決の過程で，子供自ら問題解決にあたることにより，生活者としての実践的な態度や資質をも育成されていく。

このように，国際理解教育の実践では，子供たちが日常直面している問題を自己の問題として受け止め，それを主体的に学習する姿が望まれる。また，生活上の問題から内容構成をはかり，子供たちが，自らテーマを持ち，様々な視点から学習を進めていくことが必要となる。

国際理解教育の実践を考える時，総合的な学習のなかで実践をどう進めていくのかという技術的な問題にとどめることなく，教師と子供がこれからどんな学びを創造していけばいいのかという教育の営みをも問題にしていることを忘れてはいけない。

図書紹介

国際理解教育の授業づくり　佐藤郡衛（ぐんえい）
林　秀和（ひでかず）編
教育出版

編者紹介　佐藤郡衛　1952年　福島県生まれ　東京学芸大学教授
総合的な学習について，国際理解教育の立場から数多くの研究をしている。
林　秀和　1974年　神奈川県生まれ　川崎市立川崎小学校教諭　川崎市総合教育センター主任研究員として国際理解教育の実践研究を進めている。

本書は，川崎市総合教育センターの研究グループがまとめた国際理解教育の実践の手引きが元になっている。全部で７章から構成されており，１．２章では国際理解教育の方向性と実践の視点。３章では，カリキュラムや，指導案の作成。４章では実践例。５．６章では評価と課題。そして，７章では情報収集の方法と国際理解教育の実践のヒントがたくさん詰まっている。実践に基づいた内容でとても分かりやすく，すぐにも実践に利用できるものである。

特に，２章と３章に述べられている，国際理解教育の子供の実態を踏まえた目標作りの設定の方法はこれからの実践にとても示唆を与えてくれる。

後志大会・課題別分科会のテーマ及び視点のお知らせ

①第１分科会「学校における国際理解教育の計画と実践」

○学校における特色ある国際理解教育の計画と実践

各校における国際理解教育についての計画や実践などを交流することによって、その実態を把握する。

校内研究としての国際理解教育の位置づけ、各教室等の中での国際理解教育や行事による国際理解教育の取り組みについて、今後のあるべき姿を研究討議して追求していきたい。

②第２分科会「地域社会との連携による国際理解教育の推進」

○国際理解教育の充実のための地域素材や教育力の活用
○確かな国際理解と実践力を育てるための地域社会との連携

国際理解教育を推進するうえで、地域社会との連携を欠かすことはできない。その地域の特色（姉妹都市・産業等）を生かした国際理解教育や地域社会の教育力の活用の仕方など、地域社会に即した連携の在り方を研究協議し追求していきたい。

③第３分科会「在住外国人を通した異文化理解」

○諸外国における教育制度及び教育の現状
○日本と諸外国との文化・習慣及び見方・考え方の相違

国際化が叫ばれて久しい。以前に比べ多くの外国人の人を我々のまわりで見かけるようになった。しかし、我々日本人（特に学校教員）がその人達と話す機会は少ないように思われる。

我々のまわりにいる外国の人から、その国の教育制度及び教育の現状や風俗・習慣などを聞くことによって、日本と諸外国との様々な相違を明らかにし、異文化理解の一助としたい。

④第４分科会「各地区における国際理解教育の研究交流」

○各地区における国際理解教育の現状と課題

最近国際理解教育の重要性が叫ばれている。北海道国際理解教育研究協議会はその流れに先行する形で、また、全道１７地区のさまざまな相違を生かしながら、活発な研究実践を行い、成果の積み上げを行ってきている。

本分科会では、それぞれの地区での研究実践や課題についての交流や研究討議を行い、教育現場ですぐにでも実践できる国際理解教育の充実発展のために生かしていきたい。

大会事務局からのお願い

分科会のかくテーマにそって、たくさんの会員からレポート提言があることを希望しています。尚、締め切りは７月１５日(水)です

大会事務局　共和町立西陵小学校　射守谷（いもりや）　秀治
〒045-0031　岩内郡共和町梨野舞納４２番地の３
☎ ０１３５－６２－５６７５
TAX０１３５－６２－５６１９